チケットを活用するオープンソースソフトウェア開発の実態調査

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　0942038　久保　孝樹

1. 研究背景

ウェブアプリケーションやソーシャルゲームなどのソフトウェア開発プロジェクトでは，開発中に変化していく環境や顧客の要求に柔軟に対応していかなければならない．そのため，開発プロセスもそのような事柄を考慮したものが求められている．

従来のウォーターフォール型では，要求定義や，外部設計，内部設計，開発，テスト，運用などの作業を各工程に分割して実行する．原則として前工程が終了しなければ次工程に進めることができない．顧客の要求の変化や環境への変化に対応していくためには，手戻りをしなくてはならない．そのため，要求や環境が変化すると，必然的にプロジェクトは遅延し，コストは超過する．このような問題の解決策として，アジャイル型の開発プロセスが注目されている．アジャイル型の開発プロセスでは，1回のイテレーションを短い周期で行い，その中で要求定義，開発，テストを行うため，環境や顧客の要求の変化に柔軟に対応することが出来る．

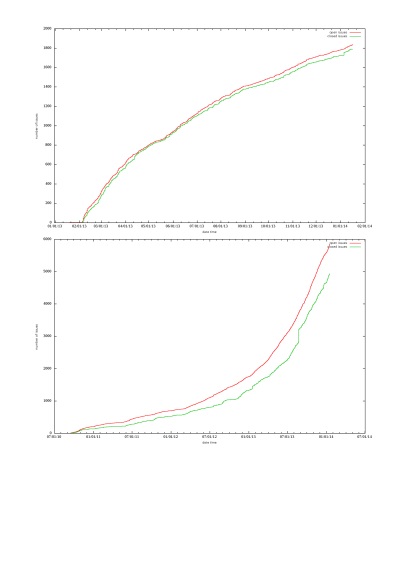
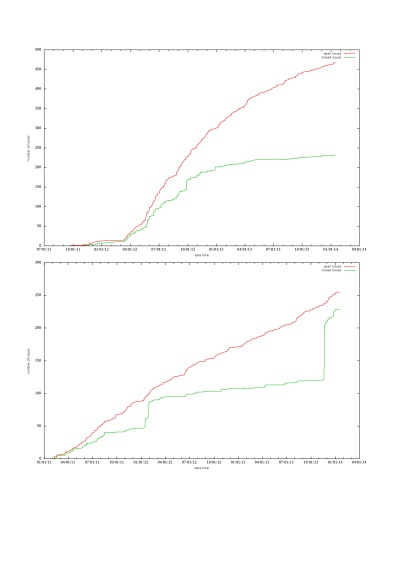


図 1　Open,ClosedIssuesの累計

アジャイル型の開発プロセスでは，環境の変化，顧客の要求やバグの修正など，様々なタスクが発生する．それらに柔軟に対応するため，チケットと呼ばれるツールが活用されている．チケットは，すべきことと報告者，担当者，優先度，マイルストーン，種類，状況，コンポーネント，解決法，その他詳細をひとまとめにしてWeb上で共有するための仕組みである．Web上で管理されるため，プロジェクトメンバはいつでもチケットを参照，更新することが出来る．チケットはソフトウェア開発において重要なツールであり，これによって，プロジェクトのスコープや進捗の管理，プロジェクトメンバの管理が効率的に行えると考えられる．

1. 研究目的

チケットがどのようにソフトウェア開発プロジェクトで使われ，役立っているのかを調査する．そのために，ソフトウェア開発プロジェクトにおいて，最もよく使われているバージョン管理サービスであるGitHubを利用し，GitHubにおけるチケット（Issueと呼ばれる）の使われ方を調査する．具体的には，GitHubで公開されているソフトウェア開発プロジェクトにおいて，Issueがどのように使われているのかを調査し，チケットがどのように使われるかを知りたいと考えた．

1. 研究方法

以下の方法で研究する．

* + 1. チケットのデータをGitHubからAPIを用いて取得する
    2. 2. プロジェクトにおける，チケット数（総数と解決済みの数）の時間変化を調べる
    3. 3. 2の結果からソフトウェア開発プロジェクトの開発形態を分類する

1. 結果・考察

調査結果からグラフを書いた結果以下のようなに4つの傾向に分類することが出来た．

以上のグラフからチケットを利用したプロジェクトにおいて，チケットの利用に違った傾向がみられることが分かった．①は緩やかに膨らんだ形，②は急激に上がっている形，大きくはこの二つの形に分けられた，その他にはや，③チケットの消化が発行に追い付いていないグラフや，④チケットの消化が停滞し，急激に消化されている形が書かれていた．この要因として，チケットが開発のタスク管理に使われていたり，バグの報告に使われていたりと，プロジェクトによりどのような用途で使われるかということが考えられた

．

参考文献

[1] 小川明彦, 酒井誠. チケット駆動開発. 翔泳社, 2012-8-23.

[2] Jonathan Rasmusson. アジャイルサムライ―達人開発者への道. オーム社, 2011-11-25.

[3] 濱野純, 入門Git, 秀和システム, 2009-9-25.

[4]片岡巌. WEB+DB PRESS. 技術評論社, 2012-7-25, Vol.69. p.18-52.